

令和5年3月9日

# 南の風 For Junior 1 / 7

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回はオフボールスクリーンに対する守りで、スクリーナーの守り方を紹介します。アライメントは前号と一緒に。左ウイングの1がボールマンとします。

3つ紹介します。①アットザレベル、②サギング、③ショウです。ユーザーの守り方(116号を参照)と連動するとより分かりやすいです。

## ①アットザレベル

トップの3が右ウイングの2のディフェンスにダウンスクリーンに行きます。そのときに、3のディフェンスは3と肩を並べるように、ピタッと付いて行きます。このときユーザーのディフェンスは、ロックトレイル(ファイトオーバー)で守るようにします。すると万一、1から2にボールが入ったとしても、3のスクリーナーディフェンスが2にも対応しやすくなるのです。

## ②サギング

この守り方は、トップの3が右ウイングの2のディフェンスにダウンスクリーンに行ったときに、サッグと言って下がってしまうやり方です。ユーザーの守り方で紹介した、ギャップと連動したい守り方です。サッグしてユーザーのディフェンスの通り道を空けるのです。利点としてはやりやすく対応が楽です。弱点としては下がってしまうので、ユーザーが強力なシューターの場合、やられる可能性は大です。

## ③ショウ

これは、トップの3が右ウイングの2のディフェンスにダウンスクリーンに行ったときに、スクリーナーよりも上に上がって、顔を出してユーザーにプレッシャーをかける守り方です。一番積極的な守り方になります。このとき、ユーザーのディフェンスはロックトレイルで守ると、ユーザーをブリッツ(ダブルチーム)することも可能になります。

以上3つ紹介しました。ユーザーとスクリーナーのディフェンスがどの組み合わせで守るかを、チームで予め決めておくことが大切です。

最後にせっきくの機会ですから、特殊な守り方を紹介しておきます。チームで使う、使わないは別にして、知っておいて損はないので書きます。

## ①ベリニアップ

この守り方は、スクリーナーが強力なシューターの場合に行うことが多い守り方です。3が強力なシューターとします。3が右ウイングの2にスクリーンに行こうとした場合、3のディフェンスはボディアップして密着して付いて行きます。スクリーンの後もピッタリ付いて離れないようにします。そしてスクリーナーがポップアウトしても執拗に付いて行きボールを持たせないようにします。

ユーザーのディフェンスの守り方に拘わらず、スクリーナーにボールを持たせないことを優先する守り方です。ベリニアップとは、お臍を意味します。ボディアップを強固にして、スクリーナーを徹底的に守る方法です。次号にします。